

取扱説明書

電動テイルト&リクライニング車いす アクトモアルアナ

スイングアウト仕様/エレベーター式スイングアウト仕様

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

1 ご使用上の注意

⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】

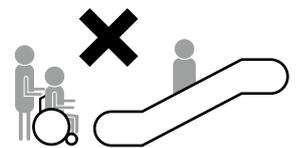
- エスカレーターおよび動く歩道では使用しないでください。
介助者がいる場合でも、転倒などにより事故の原因となるおそれがあります。



- 急な坂道を下る場合は、後ろ向きで下ってください。
前向きで下ると搭乗者が転落する可能性があります。

- 車道を通らないでください。

車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。



- 心臓ペースメーカー、生命維持装置や医療機器などの電磁波ノイズに影響を受ける可能性のある装置を使用している方は、本製品を使用しないでください。

- 定期的に圧迫を開放してください。

本製品のクッションは効果的に体圧を分散しますが、長時間同一姿勢の体位を続けると、床ずれの原因になります。

- スピードを出さないでください。

スピードが出ているときの急カーブ、急ブレーキは転倒するおそれがあり危険です。

- 溝や踏切の線路での脱輪、キャストの挟み込みには十分注意してください。

踏切りを横断の際は、車輪・キャスト輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまるおそれがあり危険です。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

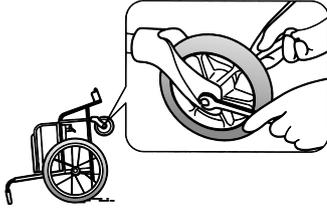
- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 医師やリハビリテーション専門スタッフなどに本製品の使用が危険と判断された場合は使用しないでください。
- 車いすから乗り降りしたり、介助者が離れるときは、必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みブレーキを掛けてください。
車いすが動いて事故につながる可能性があります。
- フットサポート（足置き）に立ったり、直接体重を掛けないでください。
フットサポートが破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。
- アームサポート（肘置き）やフットサポート（足置き）は必ず取り付けて使用してください。
走行中の体が不安定になり危険です。
- 次のような場合、走行を避けてください。
・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合
- 公共交通機関で使用する際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道などの傾斜がある場所では、足踏み駐車ブレーキペダルを踏んで両輪にロックをかけても車いすが動く場合があり、転倒事故につながるおそれがあります。
- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重を掛けないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 製品の使用者最大体重（積載物を含み100kg）を守ってください。
- フットレッグサポートの回転・取り外し・取り付けは、必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けた状態で行ってください。
- フットレッグサポートを閉じたときは、必ず固定されたことを確認してください。
- エレベーター式フットレッグサポートの角度を調整する場合は、必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けた状態で行ってください。
手や足の挟み込みに十分注意して行ってください。
- 使用者が車いすに乗ったままエレベーター式フットレッグサポートの角度の調整を行う場合は、足を挟み込んだり、股関節の可動域に支障をきたさないよう十分注意して行ってください。
- ヘッドサポートやアームサポート（肘置き）、フットサポート（足置き）を持って車いすを持ち上げないでください。
パーツが外れ、ケガをするおそれがあります。持ち上げる際には車体（座面下）をお持ちください。
- 座面角度を調整する際、座面下に手を入れないでください。
座パイプとフレームの間に挟まってケガをするおそれがあります。
- リクライニングやティルト角度を起す際は、アームサポート（肘置き）とフレームの間に体の一部やうでまたは手指を入れないでください。
- リクライニングやティルト角度の調整をしたまま坂道での走行は十分ご注意ください。
- 転倒防止バーを外したまま使用しないでください。
転倒するおそれがあります。
- アームサポート（肘置き）を下げたまま走行しないでください。
走行中、体が不安定になるおそれがあり危険です。
- 車いすは1人乗り用となっています。2人以上で座り、動かさないでください。
- 車いすを物品運搬や歩行の補助具としてなど車いす以外の目的で使用しないでください。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物などを掛けないでください。
荷物などが各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。



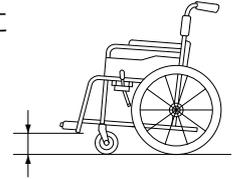
⚠ 注意

【軽傷または物的損害を招く可能性があるもの】

- ご使用前に主輪・キャスタ・ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- フットサポート（足置き）は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。



- 使用者が車いすに完全に座れているか確認してから走行してください。体の一部や衣服が主輪やキャスタに挟まれていると危険です。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 車いすを組み立てる際、背もたれのフレームと折りたたみ用ノブネジの間に指を挟まないように注意してください。
- 走行中、体を乗り出さないでください。走行の安定を損ない危険です。
- 走行中、足がフットサポート（足置き）から落ちないようにしてください。
- アームサポート（肘置き）を上下させるとき、手や衣服を挟み込まないよう注意してください。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。アームサポートやフットレッグサポート、ヘッドサポート、手押しハンドル、シート、電動シリンダー部品、バッテリーボックス、配線コードなどを持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、十分にご注意ください。指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがあります。
- 主輪のスポーク部分に指を差し込まないでください。ケガをするおそれがあります。
- 車いすの分解や改造はしないでください。強度や耐久性が低下し危険です。
- 車いすを火気に近づけないでください。シート部が燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするなどのおそれがあります。
- 本体の近くで強力な電波を発する無線機などの機器を使用しないでください。誤動作の原因となる可能性があります。
- 屋内の室温5～40℃の結露・氷結のない環境で使用してください。
- ほこりの多い場所や磁気の強い場所で使用しないでください。

2 製品の特長

- おしりや太ももだけでなく背中への体圧を分散できるティルトリクライニング機能を、利用者自身が手元のコントローラー操作で電動調整ができる車いすです。
- エレベータリング式スイングアウト仕様はフットレッグサポートのエレベータリング機能で、ひざ下の角度調整ができます。
- バックサポートの高さや奥行き前後調整機能付きで、利用者の身体状況に合わせた調整が可能です。
- ヘッドサポートは、角度や前後調整機能付きで、食事などの姿勢をサポートがしやすい形状です。
- クッションは、骨盤から大腿骨まで立体的にサポートできるため安定した姿勢が保ちやすい形状です。

3 各部の名称

【スイングアウト仕様】



【エレベータリング式スイングアウト仕様】



4 適合調整

フットサポート (足置き) 調整のしかた

- ① フットサポートの上にある調整用ボルトを、六角棒レンチ(4mm)でゆるめます。
- ② フットサポートの長さを調整(無段階)し、調整用ボルトを完全に締めてください。

- △ 注意**
- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上面より5cm以上でご使用ください。低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポートが当たり、転倒するおそれがあり危険です。
 - 調整用ボルトを極端に強く締めすぎないでください。締付けクランプ部品が破損する場合があります。

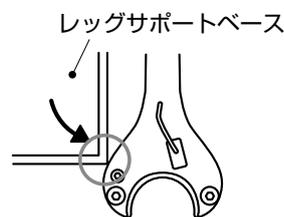


エレベータリング式フットレッグサポートの調整のしかた

レッグサポートは体の状態に合わせて、ふくらはぎに当たる部分を上下、角度または奥行きを無段階に調整でき、パッドの位置も上下左右に調整することが可能です。

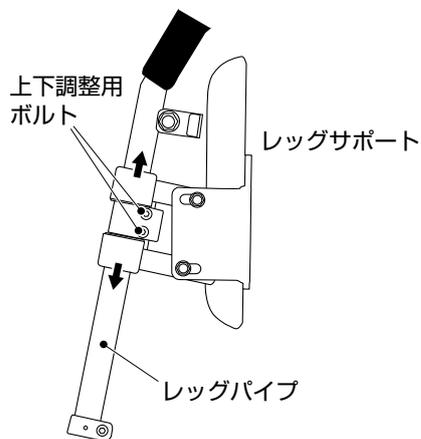
レッグサポートベースの調整をしたときは、レッグサポートベースの角がレッグサポート取付部に当たらないことを確認してください。

レッグサポートベースの角が、レッグサポート取付部に当たる場合、レッグサポートベースの角が、レッグサポート取付部に当たらないように、レッグサポートベースの角度・奥行きを再調整してください。

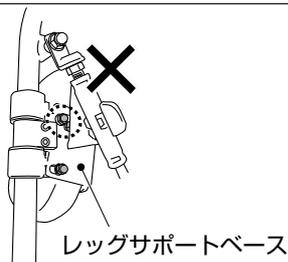


●レッグサポート(ふくらはぎあて)の上下調整のしかた

- ① 上下調整用ボルト2ヶ所を、六角棒レンチ(4mm)でゆるめます。
- ② レッグサポートの高さを上下に動かし調整します。調整後はゆるめた2か所のボルトをしっかりと締めて固定してください。



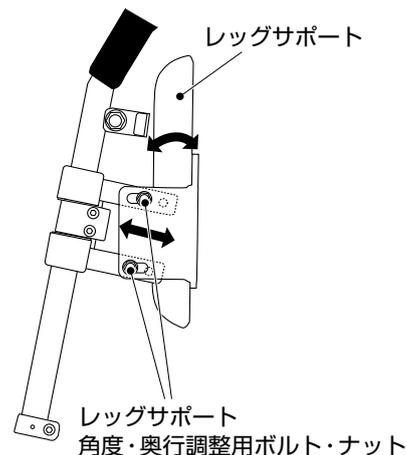
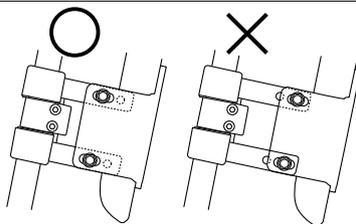
エレベーター機能でフット・レッグサポートを引き込んだときにナット同士が当たってしまう場合は、ナット同士が当たらないようにレッグサポートベースの高さを再調整してください。



●レッグサポート(ふくらはぎあて)の角度・奥行調整のしかた

- ① レッグサポート角度・奥行調整用ボルト・ナットを、六角棒レンチ(4mm)とスパナ(10mm)でゆるめます。
- ② レッグサポートの角度と奥行きを調整します。調整後はゆるめた2か所のボルトとナットをしっかりと締めて固定してください。

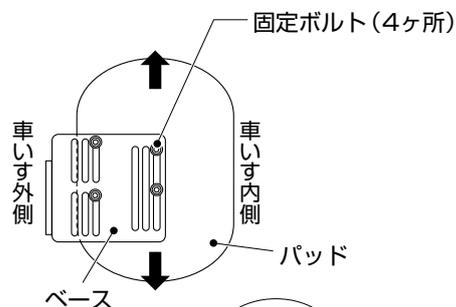
レッグサポート角度・奥行調整用ボルト・ナットを取り外し穴位置を変えてしまうと、正常な使用ができなくなるため、穴位置は変更しないでください。



●レッグサポート(ふくらはぎあて)の패드位置調整のしかた

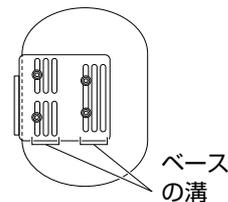
패드位置の上下調整の場合

レッグサポートの패드とベースの固定ボルト(4ヶ所)を、六角棒レンチ(4mm)でゆるめます。
パッドの高さを上下にスライドさせて調整ができます。調整後はゆるめた4か所のボルトをしっかりと締めて固定してください。



패드位置の左右調整の場合

レッグサポートの패드とベースの固定ボルト(4ヶ所)を完全に取り外してベースの溝の位置を変えると、パッドの位置を車いすの外側に変えられます。ワッシャー類は元通りにセットして、ボルトはしっかりと締めて固定してください。



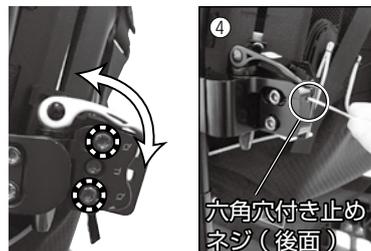
バックサポート(背シート)調整のしかた

バックサポートの位置調整(前後・上下・角度)や背もたれの張り調整ができます。

角度の調整方法

バックサポートの角度を微調整することができます。

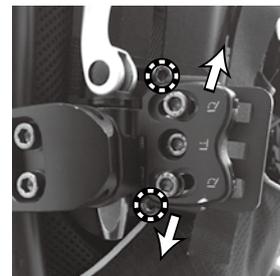
- ① 調整金具の側面にあるネジ(2ヶ所)を六角棒スパナでゆるめ、本体の角度を調整します。
- ② 身体状況に合わせて調整し、角度の位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。
- ④ 角度が変わらないように六角穴付き止めネジ(後面)を六角棒スパナで締めます。



上下の調整方法

バックサポートの高さを上下7.5cmの調整ができます。

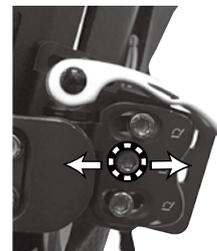
- ① 本体フレームの左右にあるネジ(2ヶ所)を六角棒スパナでゆるめ、本体を上下に動かし高さを調整します。
- ② 身体状況に合わせて調整し、高さの位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



奥行き前後の調整方法

バックサポートの奥行きを調整することができます。

- ① 調整金具側面にあるネジ2ヶ所を六角棒スパナでゆるめ、本体を前後に動かして奥行きを調整します。
- ② 身体状況に合わせて調整し、奥行きの位置を決めてください。
- ③ 位置が決まったら、調整金具のネジを確実に締めて固定します。



背張りの調整方法

- ① 本体の裏面にあるカバーベルトを外しカバーをめくります。
- ② 背張り調整部のワイヤーシステムがロックされていることを確認してください。
- ③ ワイヤーシステムのダイヤル部を時計回りに回すと背の張りを締めることができます。全3ヶ所のワイヤーシステムを身体状況に合わせ、背の張り調整ができます。
※空回りする場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでください
- ④ 背の張りをゆるめるときは、ワイヤーシステムのダイヤル部を深くつまみ、親指で浮かせるようにロックを外してください。再度背の張り調整する場合は、ワイヤーシステムを「カチッ」と鳴るまで押し込んでからダイヤルを回してください。

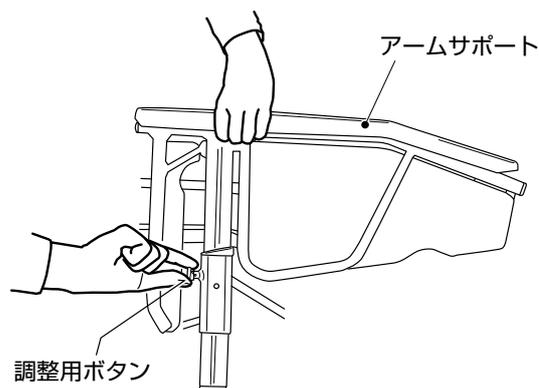


上下式アームサポート(肘置き)の調整のしかた

- ① 足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けます。
- ② アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いてロックを解除させてから、アームサポートの高さをゆっくりと上下させて高さを調整します。このとき、調整用ボタンがロックされたことを確認してください。

シート(座面)の高さ付近まで下がるほか、シートから18~32cmの8段階調整ができます。

※アームサポート高を座面と同じ高さまで下げたときは、調整ボタンによるロックはされません



⚠ 警告

必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けてください。
車いすが動きだし大変危険です。

⚠ 注意

- アームサポートを上下させるとき、衣服や手を挟み込まないよう、注意してください。
- アームサポートが落ちないようにパッド部を持ちながら高さ調整を行なってください。
アームサポートから手を離してロックを解除しないでください。
落ちたアームサポートとフレームで手や指などははさんでケガをするおそれがあります。
- 調整後はアームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

ヘッドサポートの調整のしかた

頭部の位置に合わせて上下・前後・回転、ヘッドサポート部の左右角度の調整ができます。

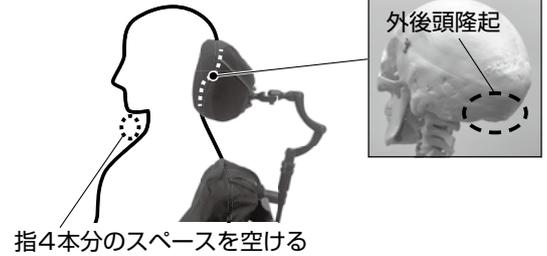
ポイント

- 外後頭隆起の下部からサポートするようにヘッドサポートを調整します。
- 頭部の位置は、あごの下に指4本分(軽くうなずく程度)をめやすにすると、食事が摂りやすい角度になります。

△注意

フレームのすき間に指や手を挟まないように注意してください。

外後頭隆起を下からサポート

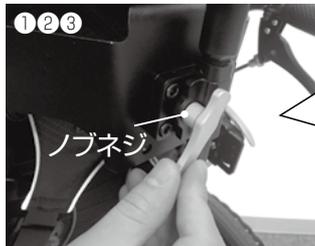


高さの調整

- ① 支柱受けにあるノブネジをゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせてヘッドサポートの高さを調整します。
- ③ 調整が終わったら、ノブネジをしっかりと締めて固定します。

本製品を抜き差しするとき、高さ固定金具により一度決めた位置で固定できます。

- ④ 高さ固定金具を六角棒スパナでゆるめます。
- ⑤ 支柱受けに当たるところまでスライドさせてください。
- ⑥ 高さ固定金具のネジを確実に締めて固定します。



支柱受けの位置を替えることで高さを2.5cm調整できます

【ヘッドサポートベース裏面】



頭部の回転調整

- ① 頭部の回転調整ネジ3ヶ所を六角棒スパナでゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせて角度を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。

回転：360度



上下：80度



左右：45度



前後左右の回転調整

- ① 5ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ② 頭部の位置にあわせて前後左右の位置を調整します。
- ③ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左側からサポート



前方でサポート



右側からサポート



後方でサポート



ヘッドサポート部の左右角度調整

- ① ヘッドサポートの裏にあるファスナーを空けてカバーをめくります。
- ② 左右2ヶ所の調整ネジを六角棒スパナでゆるめます。
- ③ 頭部の位置に合わせて角度を調整します。
- ④ 調整が終わったら、全てのネジを確実に締めて固定します。



左右それぞれ10度ずつ
10段階に調整可能



手押しハンドル高さの調整のしかた

手押しハンドルの高さの微調整ができます。

- ① 手押しハンドル下にある高さ調整ネジを六角棒レンチ (5mm) でゆるめます。
 - ② 手押しハンドルの高さを微調整します。(無段階)
 - ③ 位置が決まったら、その高さを保持しながら、グリップ高さ調整ネジを締め固定します。
- ①~③の手順で、もう片方の手押しハンドルも調整します。



△注意

ティルトとリクライニングの角度を最も起こした状態で、床面から手押しハンドルの後端上面までの高さを96cm以下にしてください。

手押しハンドルの高さが96cmを超えた状態で使用をすると、ワイヤーの破損や誤作動につながるおそれがあります。



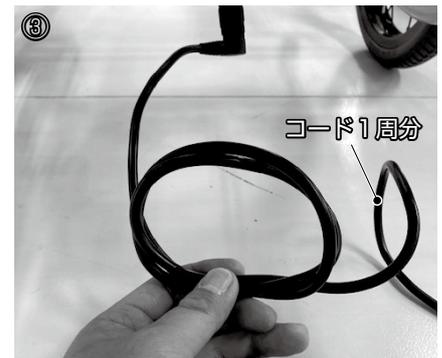
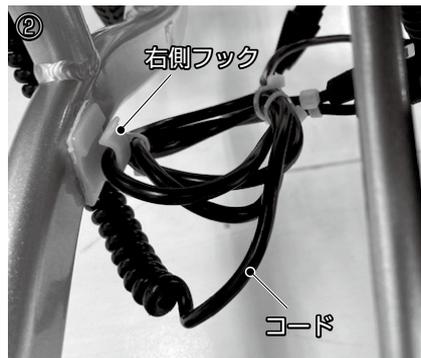
コントローラーベルトの左右位置の変更のしかた

右側（標準仕様）のアームサポート（肘置き）下にあるコントローラーベルトを左側へ変更できます。

- ① アームサポート裏面にあるコントローラーベルト固定用ボルトを、六角棒レンチ（3mm）でゆるめて、ベルトを取り外し、反対側のアームサポート裏面に付け替えます。ボルトのワッシャー類は元の通りにセットし、固定用ボルトはしっかりと締めて固定してください。
※ベルトの縫い目が内側になるようにしてください



- ② コントローラーのコードを留めているベースフレーム前方内側のフックからコードを取り外します。
※コントローラーは車いすの下を通して左側へ移動し床においてください
- ③ コードを束ねている結束バンドを切り、まとめているコードをコントローラー側に1周分ゆるめます。



- ④ 再度、結束バンドをコードに巻き付け固定します。さらに「L」というシールが貼ってあるコネクタ同士が外れないように以下写真のように結束バンドで固定されているか確認してください。
- ⑤ まとめたコードを左側フックに引っ掛けます。
- ⑥ コードの移設が終わったらコントローラーを左側に掛けます。



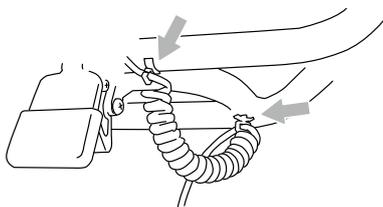
△ 注意

結束バンドの位置や締め方によっては、コネクタが外れる要因になるおそれがあります。

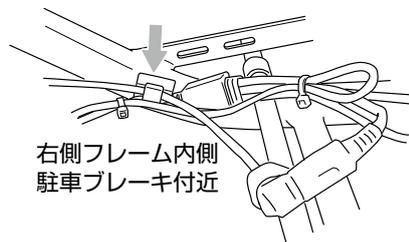
5 ご使用前の準備と点検

ご使用前に以下の点を確認してください

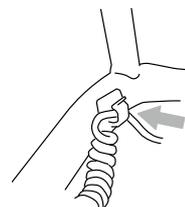
- 介助用制動ブレーキがしっかり利くこと。
- 足踏み駐車ブレーキペダルがしっかり利くこと。
- 左右の転倒防止装置が正しく装着されていること。
- ヘッドサポートが正しく装着されていること。
- ティルト・リクライニングがスムーズに動くこと。
- 介助用制動ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作すること。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがないこと。
※特に、足踏み駐車ブレーキペダルの取り付け部や、車輪軸部は確実に確認してください
- シート（座面）やコントロールベルトに亀裂や破れがないこと。
- フットサポート（足置き）は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上面より5cm以上でご使用ください。
低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。
- 主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないこと。
- 車輪のガタつき・ゆるみ・曲がりなどがいないこと。
- 前輪キャスト輪およびキャストフォークに変形、ひび割れ等がないこと。
- 前輪キャストがゆるんでいないか、抜け落ちていないこと。
- バックサポート（背シート）やシート（座面）のクッションが正しく取り付けられていること。
- 左右のアームサポート（肘置き）がしっかりと装着されていること。
- 各部パーツの変形、破損がないこと。
- 配線コードがフレームのフックにひっかけられていること。また、フックがフレームから外れていないこと。



背折りたたみレバー付近
(2箇所)



右側フレーム内側
駐車ブレーキ付近



コントローラーひっかけベルト取り付け側
ベースフレーム前方内側

- 配線コードがフレームの下側に垂れ下がっていないこと。
- 配線コードの被膜が傷ついていないこと、また、コードやコネクターの異常がないこと。
- 各コネクタが外れていないこと。



コネクタ

- 電動シリンダー部品およびバッテリーボックスからオイルや液体がもれていないこと。
オイルや液体がもれている場合は使用を中止して、濡れているオイルや液体にはふれないでください。
※本製品の液が目に入った場合は、水で洗ったあと、
早急に医師の診断を受けてください。失明などのおそれがあります

- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、
キャスト軸ハウジングにしっかりとハマっていること。
キャップが浮いている場合はキャストフォーク固定ボルトが
ゆるんでいる可能性があるため、使用を中止し、当社までご連絡ください。



6 ご使用方法

車いすの広げかた

- ① 車いすの足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けます。
- ② 左右の手押しハンドルを持ち上げながら、背もたれを起こします。
- ③ バックサポートフレームと固定部分(A)がしっかりと固定されて倒れないことを確認してください。

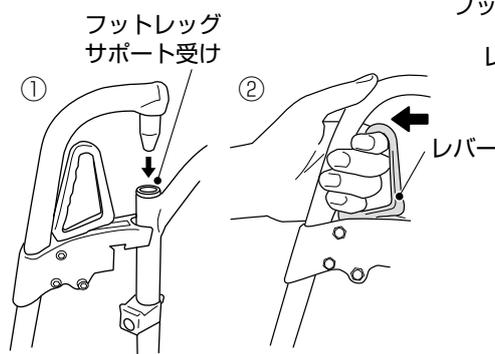
△ 注意 背もたれを起こす際、背もたれのフレームと固定部分(A)の間に配線を挟まないよう注意してください。



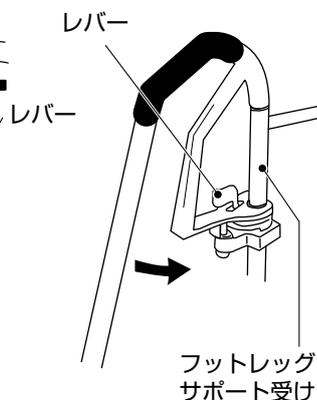
フットレッグサポート／エレベータリング式フットレッグサポートの使いかた

- ① フットレッグサポートまたはエレベータリング式フットレッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フットレッグサポート受けパイプの穴に、上から真っすぐ差し込みます。
- ② [フットレッグサポート]
レバーを握りながら、真っすぐになる位置まで内側に回転させてレバーから手を離してください。
[エレベータリング式フットレッグサポート]
真っすぐになる位置まで内側に回転させてください。
- ③ フットレッグサポートまたはエレベータリング式フットレッグサポートがフレームに固定され、左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。

[フットレッグサポート]



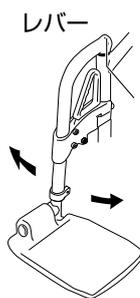
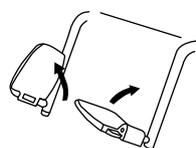
[エレベータリング式フットレッグサポート]



スイングイン・アウトをするとき

フットレッグサポートまたはエレベータリング式フットレッグサポートのレバーを握り(引き)ながら、外側または内側(フットレッグサポートのみ)に回転させます。

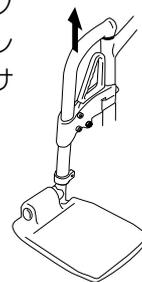
※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください



[フットレッグサポート]

取り外すとき

スイングアウトした状態から、フットレッグサポートまたはエレベータリング式フットレッグサポートを垂直に持ち上げます。

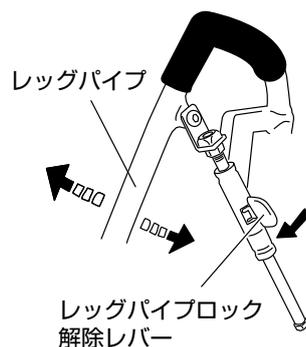


エレベータリング式フットレッグサポートの上げかた／下げかた

- ① レッグパイプを片方の手でしっかり持ちながら、もう片方の手で、レッグパイプロック解除レバーを下へ倒します。
- ② そのままレッグパイプの角度を任意に調整し、レバーから手を離して角度を固定します。

△ 警告

- 作業を行なうときは必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けた状態で行ってください。
- 走行する前は、回転レバーが確実にロックされていることをお確かめください。
- 必ずフットレッグサポートを取り付けた状態でお使いください。足がキャストに当たり危険です。
- フットレッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。バランスを崩し、倒れて危険です。



車いすのたたみかた

- ① クッションを取り外します。
- ② ヘッドサポートを取り外します。
- ③ アームサポート(肘置き)を左右とも、一番下まで下ろします。
- ④ フットレッグサポートまたはエレベーター式フットレッグサポートを取り外します。
- ⑤ 背もたれを固定している、背折りたたみレバーを引いてロックを解除します。左右のグリップ(押し手)を持って、背もたれをゆっくり倒します。



背折りたたみレバー

ヘッドサポートの取り付けかた

- ① ヘッドサポート支柱金具にヘッドサポートを差し込みます。
- ② ノブネジを締めて固定します。

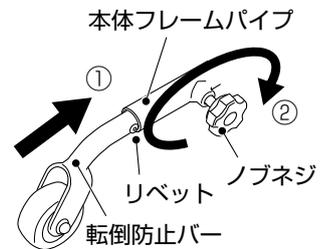


ノブネジ

転倒防止バーの取り付けかた

転倒防止バーは右側用と左側用があります。パイプに穴があいていて、リベットが見えている側が車いすの内側を向きます。

- ① 転倒防止バーを本体フレームのパイプにリベットが当たるまで差し込みます。このとき、転倒防止バーに付いている車輪が地面側になるようにしてください。
- ② ノブネジを時計回り方向に締めて固定します。
- ③ 同様にもう一方の転倒防止バーも取り付け、左右両方に転倒防止バーを設置してください。



- ⚠ 注意**
- 転倒防止バーをティッピングレバーとして使用しないでください。(転倒防止バーを足で踏まないでください。)
 - 転倒防止バーを持って車いすを持ち上げないでください。
 - 使用前には、転倒防止装置が左右とも確実に固定されていて、抜けたり回ったりしないことを確認してください。
 - 必ず左右両方に転倒防止装置を設置してください。
 - 転倒防止装置は転倒をしにくくする効果がありますが、転倒を完全に防止するものではありませんのでご注意ください。

足踏み駐車ブレーキペダルのロックの掛けかた

足踏み駐車ブレーキペダルを足で踏むことでロックが掛かります。解除する場合はペダルを足で跳ね上げてください。

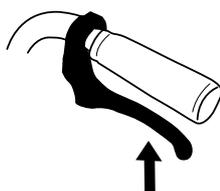
足踏み駐車ブレーキペダルは、左右連動式です。左右どちらかのペダルを操作することで、左右の後輪とも同時にロックと解除がされます。



- ⚠ 警告**
- しっかりブレーキのロックを掛けていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
 - 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
 - ペダルに体重をあずけるなど、ペダルに強い力がかかる行為はしないでください。
 - 足踏み駐車ブレーキのロックを掛けた状態で車いす本体を無理に押したり引いたりしないでください。

介助用制動ブレーキのかけかた

左右の介助用制動ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



クッションの置きかた

カバー外側の取っ手のある側が、車いすの前側になるようにシートに設置してください。



電動ティルト・リクライニングの操作方法

コントローラーを使い、車いす利用者自身でティルトやリクライニング角度を調整できます。

【コントローラー】



コントローラーを使用しないときは、コントローラーをアームサポート下の赤色のベルトに引っ掛けてください。

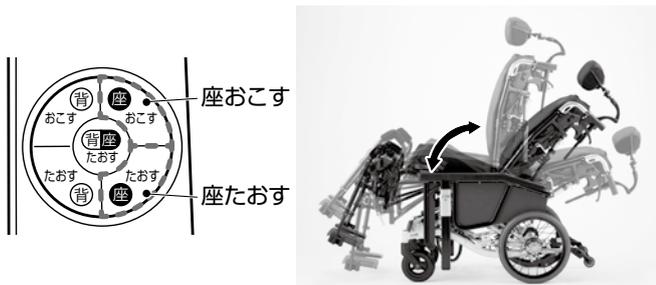
⚠ 警告

- ティルトおよびリクライニング操作時には以下に気をつけてご使用ください。
 - ・起こす動作の際は、アームサポートとフレームの間に体の一部やうでまたは手指を入れないでください。
 - ・必ず足踏み駐車ブレーキペダルを踏みロックを掛けて行ってください。
 - ・大きく倒した状態から起こす際には、角度を一度に大きく戻さず少しずつ起こし、休憩を挟みながら起こしてください。
 - また、急に大きく角度を起こすと、利用者の血圧が低下し、体調に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ティルト操作時には以下に気をつけてご使用ください。
 - ・利用者自身の足を外側に出さないでください。
 - アームサポートと座フレームで足を挟んでケガをするおそれがあります。
 - 足が座面から横に出ていないことを確認して操作を行ってください。
 - ・起こすとき、キャスト上部とフレームの間が狭くなります。手指や体を挟んでケガをするおそれがあります。
 - この部分に手指や体の一部をいれないでください。
 - ・車いすの前方、後方に物が無いことを確認し、操作してください。
 - ・無線・携帯電話などの使用をしたり、理学療法士の治療を受けないでください。
 - ・水のかかるところや、濡れた手で使用したり、コントローラーを改造したりしないでください。
 - ・誤作動のおそれがありますので、磁石など磁力の強力なものをコントローラーに近づけないでください。
 - ・長時間連続で行わないでください。



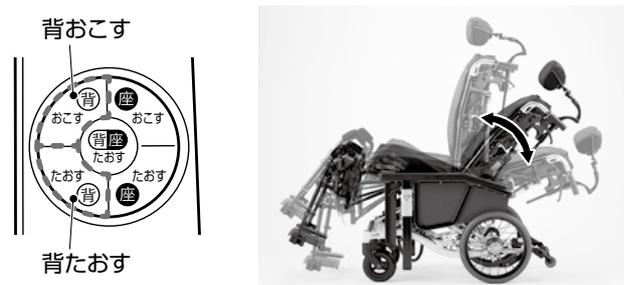
ティルトのしかた

コントローラーの「座 おこす」または「座 たおす」ボタンを指で押します。
止めたい位置でボタンから指を離すと止まります。



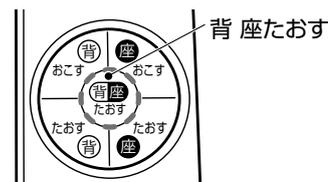
リクライニングのしかた

コントローラーの「背 おこす」または「背 たおす」ボタンを指で押します。
止めたい位置でボタンから指を離すと止まります。



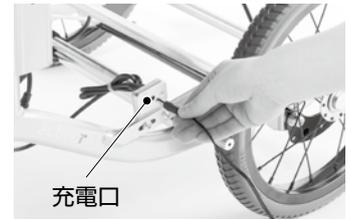
ティルト・リクライニング連動でのたおしかた

「背 座 たおす」ボタンを指で押すと、背と座が同時に傾きます。
ボタンから指を離すと止まります。



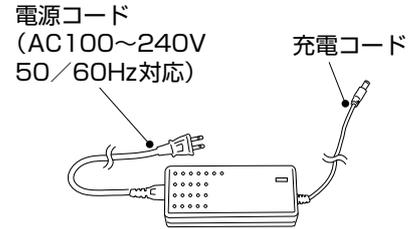
充電のしかた

- ① 充電アダプターの電源コードを家庭用コンセントに差し込み、充電コード先端プラグを車いすの充電口にしっかりと差し込んでください。
- ② 充電が開始されると、充電アダプターのランプが赤色で点灯します。
- ③ バッテリーが満充電になると、充電アダプターのランプは緑色に点灯します。満充電になったら（アダプターのランプが緑色に点灯したら）、できるだけ早く、充電アダプターの電源コードをコンセントから抜き、充電コード先端充電口から抜いて、充電を完了してください。



- ⚠ 警告**
- 感電のおそれがあります。濡れたプラグや、濡れた手で充電しないでください。つぎのような場所では充電しないでください。
・雨露を受ける場所 ・湿気が多い場所
 - 充電アダプターの分解や改造は、絶対にしないでください。故障や火災の原因となりますので絶対にしないでください。

- ⚠ 注意**
- 初めてご使用になる前には、必ず満充電になるまで充電をしてください。
 - 必ず専用の充電アダプターをご使用ください。
 - 充電中は、ティルトおよびリクライニングの操作をしないでください。
 - 雷時は、直ちに充電を中止し、電源コードのプラグを家庭用コンセントから抜いてください。
 - 充電時間は、バッテリーの放電状態によって異なります。
標準充電時間 3～6時間 ※初回の充電は6時間以上かかる場合があります
 - 長期間ご使用にならない場合でも3か月に一度は充電してください。
 - 冬場など気温が低い場所（0℃以下）では充電することができません。0℃以上（45℃以下）の風通しの良い室内で充電してください。
 - 夏場など気温が高い場所で使用した直後のバッテリーは高温になるため注意してください。充電の前に適温まで自然に冷ましてください。
 - 各所コネクタが正しく差し込まれていないと充電できません。充電コードは、充電口にしっかりと差し込んでください。
 - バッテリーボックスや充電器に衝撃を与えたり、落とさないでください。
 - 充電アダプターやバッテリーボックスの上に物を置かないでください。
 - 充電中は、充電器やバッテリーボックスが高温になることがあるため、触れないでください。
 - 充電が終了しましたら、なるべくお早めに充電コードを抜いて、充電を終了してください。充電コードを接続したままにすると、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。
 - 充電アダプターの電源コードや充電コードは、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。コード部分を持ちますと断線の原因になります。
 - 充電口には金属製のものを近づけないようにしてください。また、異物がある場合には、取り除いてください。



充電アダプター仕様
PSE適合品
電源：100～240V 50/60Hz
標準充電時間：3～6時間程度
※初回の充電は6時間以上かかる場合があります

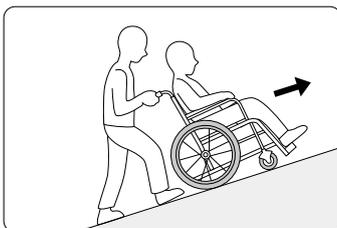
再充電が必要な場合

- バッテリー残量が少なくなると、ティルト・リクライニング動作の速度が通常より遅くなります。その場合は、できるだけすみやかに使用を中止し、充電を行ってください。それでも充電を行わず、さらに残量が減ると、バッテリーボックスから警報音（10～20秒間）でお知らせします。
- バッテリーはバッテリーボックスに内蔵されています。バッテリーボックスの交換が必要な場合は、当社までご連絡ください。

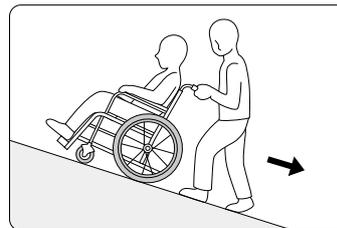
外出時の注意点

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。

坂道



〈上り坂〉
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。また、安全ベルトを必ずご利用ください。

移乗のしかた

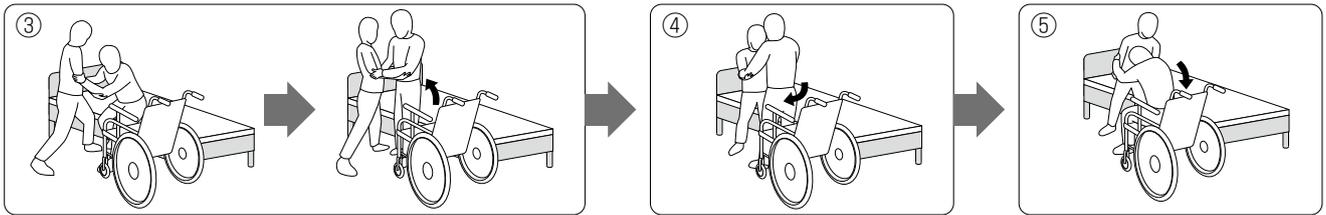
下記の方法は様々な移乗方法の中のひとつです。使用者の身体状況や介助者の能力に合わせて、適切な移乗方法を選択してください。

- ① 足踏み駐車ブレーキペダルを踏み、ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② 乗り移る側のアームサポートを下げ、フットレッグサポートまたはエレベーター式フットレッグサポートを取り外すかフットサポートを上げてスイングアウトしてください。

介助者と車いすに乗り移るとき（立位移乗が可能な場合）

※車いすから降りるときは逆の手順で行ってください

- ③ 介助者が相手の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせます。
- ④ 移乗先の車いすへおしりを向けます。
- ⑤ 車いすのシートの奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポート、フットレッグサポートまたはエレベーター式フットレッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑦ フットサポートを下ろして両足をのせます。



- ⚠ 警告**
- 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず足踏みブレーキを掛けてください。
 - 危険ですのでフットサポートの上にのらないでください。

- ⚠ 注意** アームサポートやエレベーター式フットレッグサポートを戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

7 保守・お手入れ

日常のお手入れ

- ご使用前には必ずP10「5 ご使用前の準備と点検」を確認し、常に安全な状態で使用してください。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。
雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。
- 本体フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- 中性洗剤を使用する際は水でうすめ、布をかたくしぼった状態で汚れを拭きとってください。
- 電動シリンダーやバッテリー部品の拭きとりには乾いた布を使用してください。
絶対に水をかけないでください。
- シート（座面）が汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。
汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。
生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。

バックサポートやヘッドサポートのお手入れは以下のようにしてください。

【フレーム部】

汚れたときは、水を含ませた布を固く絞り、ベース部の表面の汚れをふき取ってください。

【パッド部】

- カバー…洗濯できます。水洗いをしてください。

- 中 材…洗濯できません。

バックサポートのカバーは防水仕様ですが、濡れてしまった場合は、風通しの良いところで陰干しをしてください。

8 仕様

製品名	アクトモア ルアナ	
仕様	スイングアウト仕様	エレベーター式 スイングアウト仕様
本体外形寸法(全幅×全長×全高)	56×109×99.2~108cm※	56×108.5×99.2~108cm※
座幅	42cm	
前座高	45cm(ティルト操作角0度)	
座奥行き	36.5~42cm	
背角度調整(リクライニング機能)	90~120度	
座面角度調整(ティルト機能)	0~30度	
アームサポート(肘置き)	上下式 座面より0・18~32cm(2cm刻み8段階)	
フットサポート・シート間距離 ※床面より5cm空けた状態での高さ	32.0~40.0cm	32.0~40.0cm (エレベーター角度:90度) 32.0~51.0cm (エレベーター角度:170度)
重量	約23.7kg	約26kg
キャスト径	6インチ(ソフトタイヤ)	
主輪径	12インチ(ノンパンクタイヤ)	
使用者最大体重(積載量も含む)	100kg	
バッテリー	種類	(セルタイプ式)リチウム
	充電環境温度	0~45℃
	電圧	最大30V
	電流	最大1.5A
	標準充電時間	3~6時間(※初回充電時除く)
	満充電での使用回数	ティルト・リクライニング同時操作 最大 約200回
	PSE	PSE適合品
材質	本体フレーム	アルミ
	バックサポート	カバー:ポリエステルニット、中材:ウレタンフォーム
	ヘッドサポート	カバー:ポリウレタン・ナイロン、中材:ウレタンフォーム
	シートクッション	カバー:ポリエステルニット、中材:ウレタンフォーム
専用付属品	エンブレискッション、アクトモアバックサポートリリーフ、アクトモアヘッドサポート、転倒防止バー	

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

※ヘッドサポートを取り外した寸法です

株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店